

第57期中央労働講座に参加して

関東地方鹿島港支部 書記次長 栗俣 和夫

今回、5月27日～29日の3日間、初めて中央労働講座に参加して来ました。講座の中で、「全港湾の歴史」を学び、成り立ちや過去に先輩方が様々な問題に対してどのような対応をし、解決してきたのかを知って後輩たちにどのように伝えていくのかを考えさせられました。

講義の「今の日本の政治情勢と今後の行方」で、特に気になった言葉があります。それは、「合法的な奴隷である・資産がある人不労収入で金持ちが増えて真面目に働いても幸せを感じられない」まさにその通りと感じました。また、政権に対峙できる野党の存在があってこそ初めて国会が有効に機能すること。野党は中間組織（労働組合）の再興を期待している野党議員と協力して「労働組合」を再興していこうを私たちのグループではまとめました。

「産別協定と事前協議制度」の講義では過去の全港湾の先輩方が勝ち取り作りあげた素晴らしい財産であり、代々港湾労働者を守る盾であり、理不尽に対する武器であることを学び絶対に無くしてはならないと再確認しました。

この3日間でレクレーションも含めて日に日に距離感も縮まりより深い話ができ、次にまた出会えることが楽しみになりました。継続していくこと、次の世代へ紡いでいくことの大事さを知れた講義でした。3日間ありがとうございました。